

男体山登拝

第28回

生涯学習課総合情報館推進係
☎028(677)2525

芳賀町から西を望むと、日光の山々が連なる。その中にひととき大きく高くそびえる山が、男体山である。朝夕、日の光を浴びて輝くその姿は、見るからに神々しい。古来より神仏が住む山、靈魂の行き着く山と崇め奉られてきたのがわかる。

男体山では、毎年8月1日から7日まで「登拝祭」が催される。登拝という言葉は明治以降用いられるようになったもので、江戸時代は「男体禪頂」と言われた。この男体山登拝は、男体山を開山した勝道上人の遺徳をしのんで行われるもので、江戸時代には修験者ばかりでなく、一般の人の登拝が盛んであった。

灯籠の芯の部分のみが建っている。入江の男体講の人々が、男体山登拝を記念して江戸時代に建てたものと思われる。

一方、東水沼の岡田家には「日光男体山禪頂代参入用帳」なる帳簿がある。これは寛保2（1742）年に、東水沼村の男体山講中が59人の講員より集めた祈禱料を記したもので、その祈禱料は男体山登拝に出立する代表者に渡された。

このように、芳賀町ではすでに江戸時代の中ごろには男体山講が組織され、代表者による男体山登拝が行われていたことがわかる。男体山に登る者は、地元元の家と称する小屋で何日か寝泊まりしながら水を浴び、精進潔斎してから男体山に登った。

江戸時代には、旧暦7月7日午前零時を期して登拝が行われた。男体山に到達するのは、日の出の頃であり、ご来光を拝する習わしがあった。

無事男体山に登拝した者は、男体山の神仏の靈力を授かり、ご来光を浴びて生まれ変わり、故郷に戻って来るものとされた。人はいつまでも若くありたいと思う。男体山登拝は、そうした思いから生まれた素朴な信仰で、全員が行きたくないために毎年交代で登拝したのである。



編集後記

あまり知られていませんが、町の情報広報係は、町のホームページも運用しています。

仕事柄あちこちのホームページを見ることがあります。先日、ある県の議員さんが自分のブログサイトで芳賀町の食育を取り上げてくれました。

知らない間に、大勢の人が、芳賀町の出来事を知ってくれるのはとても励みになります。そもそもは、現場で活動している人達が実際にいる訳です。先ずは実体があるから話題もできるのですが、伝える技術と伝える気持ちがかみ合わないという情報として成り立たないのだなど、自分の係も基本に立ち返ってしまう出来事でした。

(まんじゅつ)



Saxicola torquata
(首飾りのある岩に住む鳥)

スズメより小さく、春や秋の移動期に水田地帯で見られる。日光の戦場ヶ原、沼原の草原では、夏を代表する野鳥である。

雄は頭から尾羽にかけ背面は黒色で、胸から腹、翼の付け根付近に白斑があり、胸にオレンジ色のよだれ掛けをしているように見える。雌の上面は黄褐色で、黒い縦斑があり、腰は橙黄色で肩に白斑がある。

ヒツ、ヒツ、ジャジャツと鳴き、ヒーヒーヒーヨリーと澄んだ美し声でさえずる。

幼鳥を連れて東南アジア方面に帰る時に本町で休息と食事をするもので『野鳥の道の駅』とも呼べるのが本町の農村環境である。

※この時期に『野鳥の道の駅』に寄るお客さん
キビタキ、ノゴマ、アマサギ、チュウサギ、ダイサギ、コチドリ、ムナグロ、ヒバリシギ、タカブシギ、クサシギ、イソシギ、キョウジョシギ、タシギ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ、ショウドウツバメ

- 編集 芳賀町広報広聴委員会
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス
http://www.town.haga.tochigi.jp
- 苦情専用フリーダイヤル
☎0120(753)898

☞芳賀町の携帯サイトはコチラから☞



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています
ESPA：環境保護印刷推進協議会
http://www.espa.com